

民鉄新聞

8月17日

発行

大地震発生!! JR西日本の対応

JR西日本では、大地震が起きると、地震計と緊急地震速報で大規模な地震の発生を感じた場合、運転中の電車はすぐに停車し、停車中の電車はすぐ運転を見合わせます。運転再開の見込みが立たない場合は、避難はしごを使って乗客を降ろし、安全な場所まで避難させます。津波警報エリアでは、安全な場所に列車を停車させます。津波が想定されるエリアに関しては、津波浸水地図を作製し、難読看板や、線路から高台などへの階段を整備中です。駅には、避難ルートマップを提示しています。また、阪急電鉄では、一部車両に搭載しているはしごや取りはずした座席シートが、避難用具として活用されています。

南海電鉄では、海岸沿いの区間が多いため、他の私鉄より津波の危険性が非常に高いです。そのため、避難場所マップを作製し、南海線の全乗務員や各駅に配布しています。浸水エリア内の駅には、周辺の避難場所について掲示しています。このように、色んな鉄道会社も大地震の色々な対策をしています。

地震発生!!



JR西日本 221系
 使用路線
 東海道山陽本線
 大和路線
 嵯峨野線
 大阪環状線
 和歌山線
 奈良線

詳しいこと
 営業最高速 120 km/h
 全長 先頭車 20100 mm
 中間車 20000 mm
 全幅 2950 mm
 全高 4140 mm
 直流近郊形電車

1989年に登場し、JR西日本によって初めて新規に設計製造された系列です。

ラッシュ時の色々な工夫

朝や夜のラッシュ時は電車の中は通勤客や学生などでいっぱいですが、最近ではラッシュ時間帯に役立つ電車の工夫がされています。

この列車は、1両にドアが2つあり、座席がたためます。ラッシュ時のみ、座席をたたんで、ドアを4つにすることで、車内に多くの人を乗れるようになります。

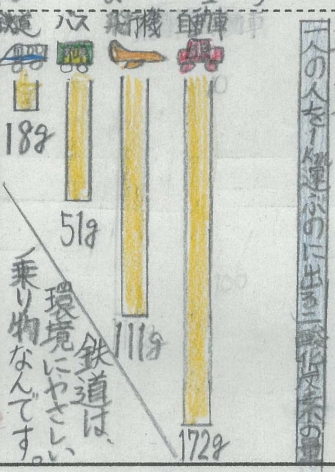
この列車は、ラッシュ時以外に開かずの扉があります。ラッシュ時のみ、扉を開くと、扉の前後に座席があります。ラッシュ時になると、扉の前後は座席がなくなり、ラッシュ時以外に扉を開くと、扉の前後は座席があります。

この列車は、座席がラッシュ時と普通の時間帯とで座席の数が変わります。普通の時間帯は、座席が少なくて、ラッシュ時には、座席が多くなります。

ロングシート クロスシート
 現在在来線。主に特急列車の座席の形など

鉄道と二酸化炭素

二酸化炭素の排出量は、きよりや運ぶ物の重さによって決まることが、乗り物の種類によっても導かれます。



鉄道の工夫

鉄道では車両にアルミウムなどの軽い材料を使って軽量化している。また、ブレーキをかけた時長モーターが発電するしくみなどによってエネルギーの使用量を減らしています。

また、ディーゼルエンジンと電気モーターを組み合わせて走るハイブリッド車もあります。

名前 [佐藤 圭悟]

世界初の営業運転を開始したJR東日本小海線のハイブリッド車、両キハE200形、愛称「ツウカ」